

Be creative !



2021年度 愛知県私学弁論大会 準優勝

演題 「耐えて咲く」 日本福祉大学附属高校2年 日生菜々香さん

「お待たせいたしました。本日の第1試合、間もなく開始でございます。まず守ります日本福祉大学附属高校のピッチャーは……」そのアナウンスを聞きながら、私はグラウンドの端で悔しさをかみしめていた。 昨年の11月、野球部は県の1年生大会に出場した。コールドゲームで負けたことより悔しかったのは、仲間を笑われたことだった。「甲子園を目指しているのに、あんな子がいるんだね。」試合前のノックで、何度もボールを取りこぼしていたのは、私とともに入部した野球初心者の選手だ。その姿を見た相手側のスタンドから、冷やかな笑い声があったのだ。



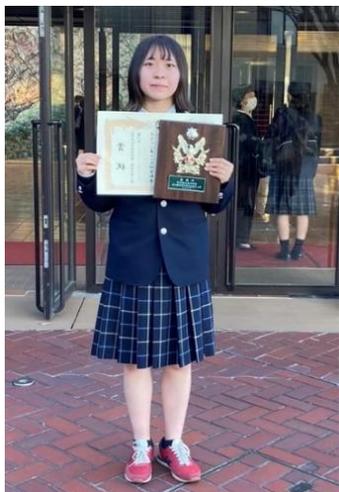
私たちの野球部は決して強豪とは言えない。それでも、「来るもの拒まず」という監督の下には、地元だけでなく県外の選手や障害を持つ選手、野球未経験者まで、様々な選手が集ってくる。私は、その個性豊かな所に惹かれてマネージャーとして入部した。「耐えて咲く」という言葉は、監督の口癖であり、私たちの合い言葉だ。相手にどれだけ力の差を見せつけられても、悔しい負け方をしても、諦めずぐっと耐えて、最後の夏に花を咲かせようという思いが込められている。私たちは、まだつぼみにもなっていない。でも、地面に根を伸ばし続ける中で、励まし合い、支え合ってきた。野球初心者の彼の存在は、いつも選手たちを初心に立ち戻らせてくれる。基本のキャッチボールや素振りを教えると、彼はうれしそうに何度も繰り返す。選手たちは基礎の大切さを再確認する。そして、野球が好きだという気持ちを確かめ、やはりもっと強くなりたいと思うのだ。私の目には、彼の成長が部全体の成長に写っている。その仲間に笑い声が向けられたのが、悔しかったのだ。その気持ちは、選手たちも同じだった。悔しさをぐっとこらえたこの出来事は、私たちのチーム意識を高め、仲間をより大切にしたいと思うようになった。

私たちの代は、先輩たちと比べて人数が少なく、体格差もある。選手たちはその差を埋めようと泥くさく練習に打ち込んできた。試合に負けた日は、遅くまで一心不乱にバットを振り続ける。その背中を、私は誇らしく思う。マネージャーの役割は、選手が思いきりプレーし、力を発揮できるよう、環境を整えることだ。私は、選手一人ひとりをよく見るようにしている。野球に向かう気持ちは、いつでも選手たちと同じだ。いや、プレーしない分、選手より熱い。選手が怒られるとき、私も一緒に怒られる。喜びを分かち合い、つらい練習にも耐えてきた。だから、試合では私も一緒に戦っている。

夏で3年生が引退し、私たちの代になった。9月の県大会、試合は0対4で劣勢だったが、相手の攻撃を抑えながら、得点のチャンスを何度も作り、私たちはまだ諦めていなかった。試合終盤の8回表、ランナー1、2塁、私たちが次のバッターに申告敬遠をして満塁を選んだときだった。相手側のスタンドから小馬鹿にしたような笑いがあった。敬遠はバッターをわざと塁へ出す、守備の作戦のひとつだ。勝つためにとったその作戦を、相手には対決を避け、逃げたと思われたようだ。私たちは、また、笑われてしまったのだ。試合はそのまま劣勢を覆せず、負けた。私は、ベンチにいながら何もできなかった。

悔しかった。そのあとも選手たちは、遅くまで練習をやめようとせず、私もグラウンドに立ったまま彼らとボールとを、ずっと目で追っていた。

3年生が引退してから、周りからは「格段に弱くなった」と言われる。県大会のあと、ミーティングの回数を増やし、自分たちに足りないところを全員で話し合っている。「苦しい場面で声が出ない」「フルスイングができていない」と、出される意見は強豪校にはほど遠いが、しっかり自分たちを見つめ直している。監督には叱られる。でも選手もマネージャーも、もう下を向かない。顔を上げ、「ごめん！」と明るい声で仲間に答えて、また駆け出していく。



私たちは、やはりまだ、つぼみにもなれていない。しかし、悔しきは原動力となり、私たちは確実に成長している。日本福祉大学附属高校野球部の目標は、もちろん甲子園出場だ。この仲間と、夏の甲子園のグラウンドに立ちたい。それが今の私たちにとってどんなに難しいことであっても、諦めたりしない。

しかし一方で、勝負の世界にいる以上、「負け」は当然あると考える自分もいる。それなら、その「負け」を力にして、仲間と共に乗り越えるチームになろう。「耐える」とは、我慢することではなく、悔しさを栄養にして伸びることだ。グラウンドを踏みしめ、駆け回る選手たちは、きっと大きなつぼみになる。私もその一員だ。私は、マネージャーとして今までより厳しく支えようと決意した。そして夏、どのチームよりも大きくきれいな花を、自分たちの力で咲かせたいと思う。

ご清聴ありがとうございました。

「Global Meetup」の LOGO が決定しました

11月13日(土)本校がホスト校となり、「Global Meetup2021」を開催いたしました。その様子は本校ホームページのブログにアップいたしましたので、ぜひお読みください。



大変有意義な会となりました。また、募集をしておりました「Global Meetup」の LOGO の決選投票も同時に行いました。海外を中心に20近い応募があった中、本校1年生の生徒の投票により最終候補を3つに絞り、最後は会の参加者による投票で決定をいたしました。投票の結果、右上の LOGO が第一位となり、今後継続してこの LOGO を使用していきます。発案者は Philippine Nikkei Jin Kai International School の Cassiane Marguerite A. Pacatang さん(左:写真)です。「Global Meetup」の大きな目的である「To promote team building」の思いを鮮やかな色彩とともに素敵にデザインしてくれました。

Ms.Cassiane, Thank you so much! We want to see you soon.

(出典:Philippine Nikkei Jin Kai International School 公式 Facebook より)

今月の言葉 よわいはつよいプロジェクト

まちがいを認めること。嘘のない自分であること。

まわりの目をおそれないこと。孤独とうまく付き合っていくこと。

そんな自分のよわさに真正面から向き合うには誰だって勇気がいる。

誰もがよわさをさらけ出せて、よわさを受け容れられる社会へ。

ラグビーを中心とするスポーツ選手によって最近立ち上げられたプロジェクトです。

私もテレビのニュースで知りました。関心のある人は一度検索をしてみてください。(山口)

